



きじむんの とぅ〜ちゅいばにい〜 文庫紹介編

第2回：まじまなあんこう 真境名安興

キーワード：沖縄研究 『沖縄一千年史』『琉歌大観』 尋常中学ストライキ事件

はいさーい！きじむんやいびーん！ 今月は、沖縄研究で有名な真境名安興について紹介するね！

真境名安興(1875.5.20-1933.12.28)は、沖縄研究者です。笑古(ショウゴ)と号しました。1875年、首里の士族の家に生まれました。沖縄県尋常中学校を卒業。成績は常に首位争いをしてきたほどの秀才。

学校の同期には、沖縄学の父といわれる伊波普猷(いはふゆう)や、照屋宏(てるやひろし)、漢那憲和(かんなけんわ)、当間重慎(とうまじゅうしん)など、沖縄を代表する著名人が多くいました。

真境名は、在学中の1895年に沖縄の教育界の大事件である「尋常中学ストライキ事件」のリーダーの一人としてストライキ宣言文を起草し、退学処分となりました。その後、復学を許されて、卒業しました。

真境名は無口で病弱で、運動が嫌いで読書好き。いわゆる文学青年タイプだったようです。沖縄の歴史のことを何でも知っていることから、「沖縄史の百科辞典」といわれていました。

社会に出てからは、新聞記者として「琉球新報」「沖縄毎日新聞」「沖縄朝日新聞」などを転々としします。

1898年には、沖縄県首里区書記となり、それ以降は公務員となります。税務や県庁勤務などをしていましたが、1914年に引退。1925年には、伊波普猷の後任として二代目県立沖縄図書館長となりました。沖縄郷土研究会の初代会長もつとめ、文化運動も行いました。58歳で死去。

沖縄の歴史をまとめた『沖縄一千年史』の著書で有名です。この本は、沖縄研究の金字塔でもあります。著作集として『真境名安興全集』(琉球新報社、1993.2)があります。

琉球大学附属図書館の伊波普猷文庫のなかには、かつて真境名安興が所蔵していた本をいくつも所蔵しています。また、真境名が執筆したものの出版できなかった『琉歌大観』の原稿の写本(台湾大学所蔵)をマイクロフィルムにして所蔵しています。これは、1461年から1917年までのあらゆる琉歌をまとめたもので、たいへん貴重なものです。

図書館ホームページでは、琉球大学附属図書館が所蔵する貴重書文庫をデジタル画像で公開しているよ。ぜひ閲覧してみてください。

(AS担当)



写真は「琉歌大観」台湾大学図書館所蔵本。「琉歌大観」について『びぶりお』29巻、1996年より。